



Kentaro Hirano 平野 健太郎

八景市場 HAKKEI ICHIBA!
フードコミュニケーター

平野健太郎

金澤のこと

ここ金澤には歴史や公園、アミューズメント施設など観光資源が豊富ですが、食の資源も沢山あります。観光協会が推進する「かなざわブランド」を始め、多くの特産物があります。また、文化的に見ると南部エリアでありながらも横須賀を始めとした三浦半島及び逗子・鎌倉エリアと密接な関係があり、それは方言からも感じ取る事が出来ます。一方で緩やかな人口減少と共に違うエリアからの移住も進み、生活スタイルやニーズにも多様性が生まれ、ごく小規模な文化の多層化が進行しています。

小売店の価値

他の地域と同じく 80 年代を境として古くからある文化は薄利多売のもと置き去りになり、経営者の高齢化と共に時代に埋もれつつあります。私の父が経営する平野酒店もそのひとつでした。一見すると現在の小売業は既に壊滅状態にあり、商売として成り立たない域であるかの様に思えますが、例えばひとつひとつ人の手で握られた不揃いの「おむすび」には“温かみ”があり、作った方が直接販売しているケースも多いので、表情や言葉からにじみ出る“ストーリー”を肌で感じる事が出来ます。これはひとつの言語であり、コミュニケーションそのものです。私がフードコミュニケーターと名乗っている起源もそこにあります。また、そうした食品は生産から販売までの時間が短い為余計な防腐処理も必要が無く、健康食品としての価値も高いため大手チェーンや大型複合施設とは別の特別な価値があると見ても良いと思います。

小売店の問題点

インターネットの普及により情報の拡散は各段にやすくなったものの、個人事業主は製造～販売までのウエイトが非常に高いため広報は後回しになる事が多く、そうした“良いもの”のどこが良いのか、また商売に込められたストーリーを広く伝える事は容易ではありません。また、情報の拡散には常に新しい事を産み出す力も必要ですが、単独ではハードルが非常に高いと言えます。

八景市場 HAKKEI ICHIBA! としての役割と機能

八景市場 HAKKEI ICHIBA! がある場所は戦後間もなく～30 年程前は「釜利谷日用品市場」という生活に関係する小売店の集合体で、釜利谷地区内の良いものを集め紹介する場でした。また、2 分ほど離れた場所にあった「平野酒店」も酒類販売のみならず、同じ文化圏にある良い食材を生産者と対話しながら集め販売する場として機能していました。釜利谷日用品市場が閉場した後も平成初期に平野酒店が閉店するまでは市場の精神が引継がれ多くの方々可愛られている場所でした。

八景市場 HAKKEI ICHIBA! が扱うものは先々代から続いた精神を現代に合せ翻訳をし、良いものを「何故それが良いか」を言語化し丁寧に伝えてゆくこと、また提供する側とされる側が対話することによって、より良く改善し続けることにあります。それだけでは無く、周囲に点在する個人事業主の緩やかな共同体を形成し、点と点をつなぎ合せ面にしてゆく事で、景色として内外に情報発信してゆくこと、また個人事業主同士が協働しながら新しい商品を産み出す機会を創って行くことに在ります。また、医薬や教育、アートといったテーマと「食」とを掛け合わせたイベントを組む事により、地域内で活動する様々な方々を巻き込むと同時に新旧の多層化してしまったレイヤーをひとつの目的で繋ぎ合えます。

更には提供する側、される側といった垣根をも取外すよう体験型の企画を通じ、地元のものに愛着を持ってもらうことと、相互的かつ新たな交流が生まれる場としての機能を目指します。

それは地元根付く小商の再構築であり、地域内に新たなビジネスを生む事則ち、「働き盛りの世代が地域内にとどまり生活の糧を得られる機会が生まれる事」で発生する地域循環型のビジネスモデルを創出したいと考えています。